

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P25 パーマの始まり
誤)ドイツのチャーチル・ネッスラー
↓
正)ドイツのチャールズ・ネッスラー

[正誤表]

・P28 <復習してみましょう！>
誤)太古官布告
↓
正)太政官布告

【回答】2

お歯黒は11世紀半ば(平安時代)には一般市民にも広がり、明治時代の太古官布告で禁止されるまで続いた。

正)太政官布告

パーマの始まり

(1905)



正) チャールズ

ドイツのチャーチル・ネッスラーがホウ砂と高熱によって髪にウェーブをつける「ネッスルウェーブ」を発明。1920年代にはアメリカで流行しました。

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。


下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P33 油性成分 表【液状】

誤)トリオクタノン(TIO)(エステル油) →削除

この表示名称には改正表示名称が設定されており、削除いたしました。トリオクタノンはトリエチルヘキサノインの旧名称となります。改正表示名称に切り替えていくことが推奨されている成分です。

液状	たとえば、角層の水分量を保つもの、 汚れなどのなじみをよくし 、メイク落としに使うもの、 肌の上でのすべりをよくしたりするもの	
	オイル 	合成 トリエチルヘキサノイン(エステル油)、ジメチコン(シリコーンオイル)、トリオクタノン(TIO)(エステル油)
	おもな成分	鉱物 ミネラルオイル(石油由来) 天然 スクワラン(サメ由来、植物由来のものも)、ホホバ油(ホホバ種子由来)

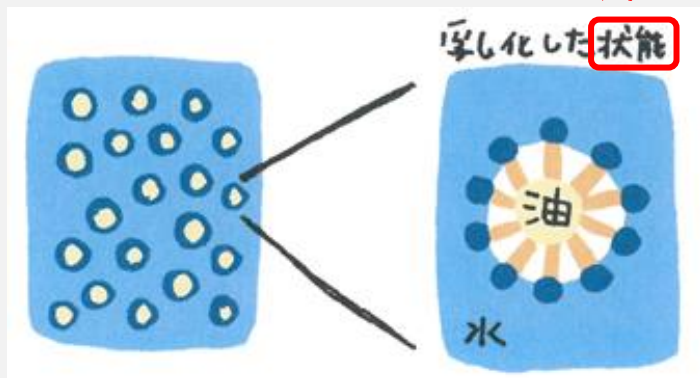
削除

[正誤表]

・P34 界面活性剤 図

誤)状態 → 正)状態

正)状態



「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がありました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P47 けん化法 説明

誤)過熱 → 正)加熱

けん化法

けん化法は伝統的な石けん製造方法です。釜に入れた**油脂**と**アルカリ**を攪拌(かくはん)しながら**過熱**し、けん化反応を起こして石けんをつくりま
す。 **正)加熱**

[正誤表]

・P80中段 <アイシャドウの製品剤型> 表 【液状・ペースト状】

誤)機密容器 → 正)気密容器

<アイシャドウの製品剤型> 製品剤型の性状は液状～ペースト状と固型状に分かれ、以下の種類があります。

性状	製品剤型	特徴
液状・ペースト状	油性系	耐水性に優れる。 機密容器 が必要
	乳化系(W/O型)	なめらかな使用感
	乳化系(O/W型)	化粧もちに劣る

正)気密容器

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P94 <皮下脂肪のしくみ>

誤)たくわえがなくなり、 → 正)たくわえられなくなり、

<皮下脂肪のしくみ>

脂肪細胞は胎児期・乳児期・思春期のみ増加し、成人期には数が変わることはなく、1個1個が大きくなったり、小さくなったりするといわれていました。成人期でも肥満が進むと個々の脂肪細胞にたくわえがなくなり、細胞分裂により増えることがあるということが最近の研究でわかってきました。

正)たくわえられなくなり、

[正誤表]

・P104 <有効成分> 表【血行促進系】

誤)ビタミンE誘導体 → 正)ビタミンE誘導体、センブリエキス

誤)センブリエキス → 正)t-フラバノン(トランス-3,4'-ジメチルヒドロキシフラバノン)

血行 促進系 (血流を促し 栄養を供給)	医薬品：ミノキシジル *(A) → 毛乳頭を刺激し毛母細胞の増殖促進
	医薬品：塩化カルプロニウム *(C1) → 血管を拡張し、血流量を増大させ、育毛を促進
	ビタミンE誘導体 正)ビタミンE誘導体、センブリエキス → 末梢血管を拡張して血行を促進する
	センブリエキス (t-フラバノン) *(C1) → 毛髪を退行期へ移行させる TGF-βの量を減らし、毛成長を促進

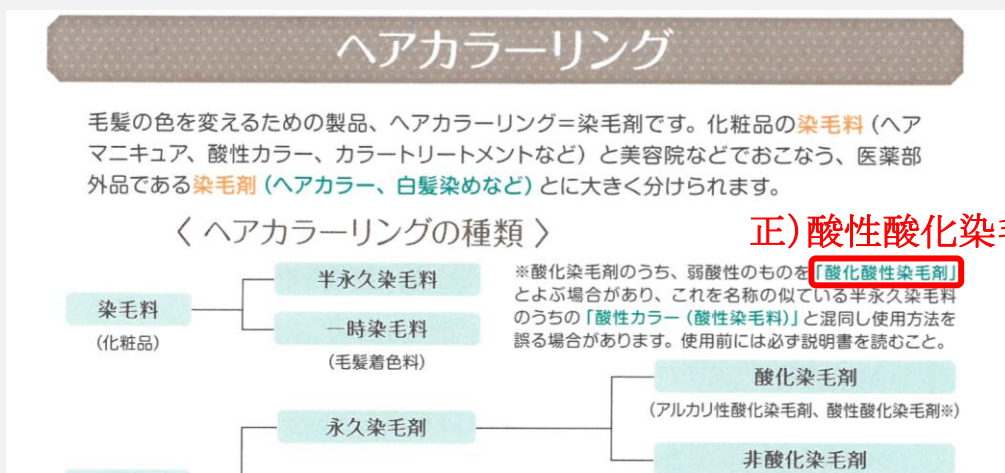
正)t-フラバノン(トランス-3,4'-ジメチルヒドロキシフラバノン)

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

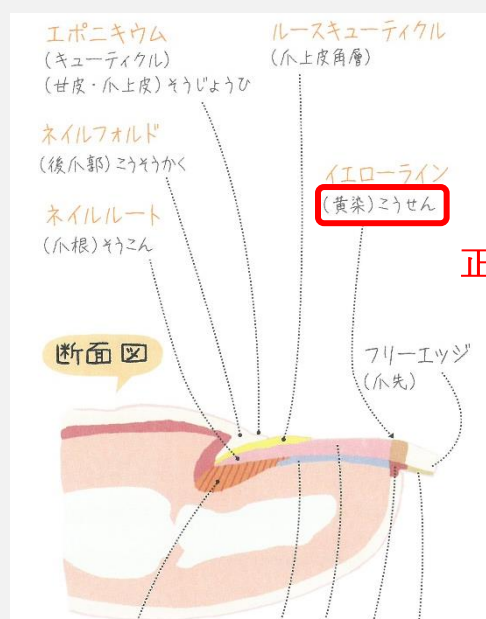
[正誤表]

・P106 <ヘアカラーリングの種類> 注釈
誤) 酸化酸性染毛剤 → 正) 酸性酸化染毛剤

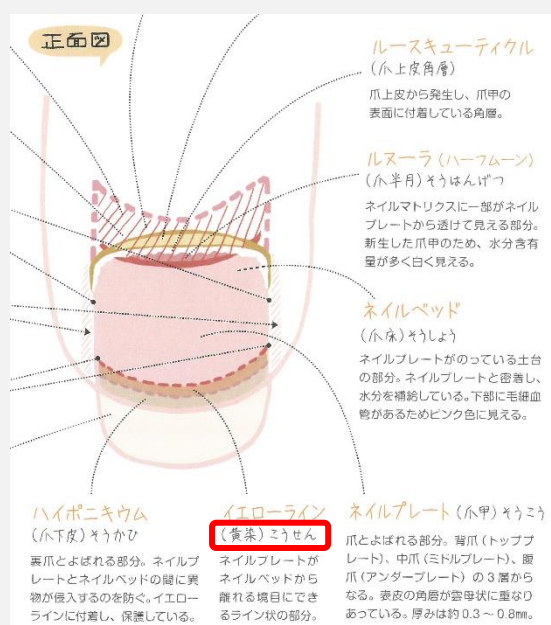


[正誤表]

・P110、111
誤) イエローライン(黄染)こうせん → 正) イエローライン(黄線)おうせん



正) (黄線) おうせん



「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P112 <色調の異常(外部から見て色ではっきり判別できるもの)>

誤) 青紫:先天性疾患、肺疾患など



正) 青紫:先天性**心疾患**、肺疾患など

< 色調の異常 (外部から見て色ではっきり判別できるもの) >


- | | |
|---|---|
| ○ 白濁: 肝硬変、慢性腎不全、糖尿病など | ○ 青白い: 貧血症など |
| ○ 黄白色: 爪真菌症、爪甲剥離症、ニコチン附着、
内臓疾患、リンパ系の異常、新陳代謝の低下など | ● 緑: 緑膿菌感染など |
| ● 青紫: 先天性 疾患 、肺疾患など | ● 茶(赤): 発熱性肉芽腫、爪下出血など |
| | ● 黒褐色: 金属性色素沈着、アジソン病、薬剤の影響、
爪下出血、メラニン色素増加、悪性腫瘍など |

正) **心疾患**

[正誤表]

・P123 表【マンダリン】抽出部位

誤) 果実 → 正) 果皮

ローズウッド	ラヴィンサラ	ヤロウ	メリッサ	ミルラ	マンダリン	ベンゾイン	ヘリクリサム	ベチバー	ペツパー	ブラック ペツパー	プテグレン	フェンネル	ローザ パルマ	
														

正) 果皮



[正誤表]

・P130 表【シプレー】代表作

誤) LUSH2(グッチ) → 正) RUSH2(グッチ)

シプレー	オークモス(苔)とシトラスに、フローラル、 アニマリックなどの複雑なコンビネーション が特徴となっている香り	正) <u>RUSH2</u> <u>LUSH2</u> (グッチ)
------	--	--

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P131 表【スパイシー】


誤) グローブ → 正) クローブ

スパイシー	ピリッとしたスパイスの香り。 正) クローブ グローブ、ペッパー、シナモン、ナツメグ、カーネーションなどが代表的
-------	---

[正誤表]

・P131下段 表現例

誤) グリーン → 正) パウダリー
副分類 副分類



ふたつの表現を使っている場合は、後ろが**主分類**です

ふたつの表現が含まれる場合、**前**がアクセントとなる**副分類**、**後ろ**が**主分類**の場合が多いです。反対に主分類が**前**にくるものもあります。

正) パウダリー

例	グリーン	フローラル	フルーティ	シトラス	シプレー	スパイシー
	副分類	主分類	副分類	主分類	主分類	副分類

[正誤表]

・P141 表【睡眠不足】

誤) ビタミンB6 → 正) ビタミンB6

睡眠不足	ビタミンB₆ ビタミンB ₁₂ 、セロトニン 正) ビタミンB6
------	--

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P142 表【ビタミンD】

誤)

皮膚における主な働き

- ・メラニン色素の沈着防止
- ・コラーゲンの合成促進
- ・血管壁の強化

欠乏症状

- ・皮下出血(壊血病)
- ・シミ、そばかす

含有食品

イチゴ、キウイフルーツ、ブロッコリー、ピーマンなど

正)

皮膚における主な働き

- ・乾癬における表皮細胞増殖抑制作用、炎症反応の抑制

欠乏症状

- ・特になし(皮膚において)

含有食品

さけ、いわし丸干し、にしん、干しシイタケなど

<p>ビタミンD</p>	<p>・メラニン色素の沈着防止 ・コラーゲンの合成促進 ・血管壁の強化</p>	<p>・皮下出血(壊血病) ・シミ、そばかす</p>	<p>イチゴ、キウイフルーツ、ブロッコリー、ピーマンなど</p>
--------------	---	--------------------------------	----------------------------------

正)・乾癬における表皮細胞増殖抑制作用、炎症反応の抑制

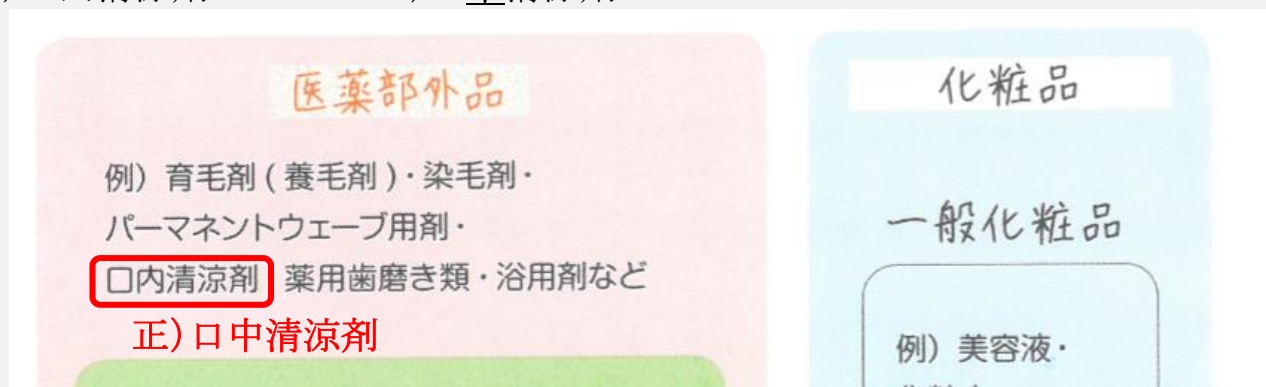
正)・特になし(皮膚において)

正)さけ、いわし丸干し、にしん、干しシイタケなど

[正誤表]

・P149 <化粧品の定義とは？> 医薬部外品

誤)口内清涼剤 → 正)口中清涼剤



「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P149下段 16行目

誤) 規定料 → 正) 規定量

正) 規定量

化粧品は医薬品医療機器等法によって「化粧品」と「薬用化粧品」に分類されます。「化粧品」は「人体に対する作用が緩和なもので、人の身体を清潔にし、美化し、魅力を増し、容貌を変え、又は皮膚若しくは毛髪をすこやかに保つためのもの」と定義されています。一方、「薬用化粧品」は化粧品としての期待効果に加えて、ニキビを防いだり、美白やデオドラントなどの効果をもつ「有効成分」が配合され、化粧品と医薬品の間位置する「医薬部外品」に位置づけられます。「医薬部外品」には「薬用化粧品」のほかに、染毛剤、パーマント・ウェーブ用剤、浴用剤、育毛剤、除毛剤などがあります。つまり、「化粧品」と「薬用化粧品」の大きな違いは、認定された有効成分が規定料配合されているか?という点です。「薬用化粧品」の場合、容器や外箱に「医

[正誤表]

・P152 表2 【シャンプー】【リンス】

誤) 汚臭 → 正) 汗臭

誤) 毛髪・頭皮をしなやかにする → 正) 毛髪をしなやかにする

表2.〈薬用化粧品の効能・効果の範囲〉

種類	効能・効果
シャンプー	<p>ふけ・かゆみを防ぐ。正) 汗臭</p> <p>毛髪・頭皮の汚臭を防ぐ。</p> <p>毛髪・頭皮を清浄にする。</p> <p>毛髪・頭皮をすこやかに保つ。</p> <p>毛髪をしなやかにする。】二者択一</p> <p>頭皮</p>
リンス	<p>ふけ・かゆみを防ぐ。正) 汗臭</p> <p>毛髪・頭皮の汚臭を防ぐ。</p> <p>毛髪の水分・脂肪を補い保つ。</p> <p>裂毛・切毛・枝毛を防ぐ。</p> <p>毛髪・頭皮をすこやかに保つ。</p> <p>毛髪をしなやかにする。】二者択一</p> <p>頭皮</p> <p>削除</p>

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」に誤植・誤掲載箇所がございました。

下記の正誤表の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

[正誤表]

・P152 表2 【薬用石けん(洗顔料を含む)】

誤)汚臭 → 正)汗臭

薬用石けん (洗顔料を含む)	<p>〈殺菌剤主剤のもの〉 皮膚の清浄・殺菌・消毒。体臭・汚臭およびにきびを防ぐ。</p> <p>〈消炎剤主剤のもの〉 皮膚の清浄、にきび、カミソリ負けおよび肌あれを防ぐ。</p>
-------------------	---

[正誤表]

・P153 表3 【口内清涼剤】

誤)口内清涼剤 → 正)口中清涼剤

種類	使用目的	おもな剤型	効能・効果
口内清涼剤	吐き気その他の不快感の防止を目的とする内服剤である。	丸剤、板状の剤型、トローチ剤、液剤。	溜飲、悪心・嘔吐、乗物酔い、二日酔い、口臭、胸つかえ、気分不快、暑気あたり。

正)口中清涼剤

[正誤表]

・P153 表3 【育毛剤(養毛剤)】

誤)発毛促毛 → 正)発毛促進

育毛剤(養毛剤)	脱毛の防止および育毛を目的とする外用剤である。	液状、エアゾール剤。	育毛、薄毛、かゆみ、脱毛の予防、毛生促進、 発毛促毛 ふけ、病後・産後の脱毛、養毛。
----------	-------------------------	------------	---

正)発毛促進

[正誤表]

・P153 表3 【浴用剤】

誤)外用剤 → 正)浴用剤

浴用剤	原則としてその使用法が浴槽中に投入して用いられる外用剤である(浴用石けんは 外用剤 には該当しない)。 正)浴用剤	散剤、顆粒剤、錠剤、軟カプセル剤、液剤。	あせも、あれ性、うちみ、肩のこり、くじき、神経痛、湿疹、しもやけ、痔、 冷え性 、腰痛、 リウマチ 、疲労回復、ひび、あかぎれ、産前産後の冷え性、にきび。
-----	--	----------------------	---

「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(2016年4月30日第1刷)」の変更点について

[変更点]

・P79 <アイメイクアップ製品のおもな種類>

アイメイクアップの安全性の厳しい順について、第3刷より下記の通り変更いたしました。

第1刷では化粧品基準(厚生省告示第331号)に則り、アイライナーが粘膜に使用されることがある製品として他のアイメイク製品と区別されていることから、「アイライナー ≥ マスカラ・アイシャドウ > 眉墨」としております。

昨今、マスカラ(まつ毛美容液含む)において粘膜近くの使用目的の製品も増えているため、当協会では第3刷より「アイライナー・マスカラ ≥ アイシャドウ > 眉墨」と変更いたしました。

第1刷

<アイメイクアップ製品のおもな種類>

アイメイクアップ化粧品には、中身と形の組み合わせにより、さまざまな種類の製品があり、とくに安全性に十分な配慮を要します。安全性に厳しい順に並べると、アイライナー > マスカラ・アイシャドウ > アイブロウとなり、目の粘膜に近い順となっています。

安全性の厳しい順



第3刷

<アイメイクアップ製品のおもな種類>

アイメイクアップ化粧品には、中身と形の組み合わせによりさまざまな種類の製品があり、とくに安全性に十分な配慮を要します。安全性に厳しい順に並べると、アイライナー・マスカラ > アイシャドウ > アイブロウとなり、目の粘膜に近い順となっています。

安全性の厳しい順



「日本化粧品検定1級対策テキスト コスメの教科書第2版(第1刷、第2刷)」の変更点について

[変更点]

・P36

第1刷、第2刷において「ポリマー(高分子)」という構造による分類を記載しておりましたが、他の項目と同様に、働きによる分類とするため、「ポリマー(高分子)」を「増粘剤」へと変更しました。

項目の変更に伴い、文言の一部を修正するとともに、表くポリマーによる分類を削除しました。また、新たな項目として「pH調整剤」および「キレート剤(金属封鎖剤)」を追加しました。

検定試験において、変更・追記箇所からの出題はございません。第2版であれば何刷のテキストをお持ちであろうと、不公平がないように配慮しておりますので、ご安心くださいませ。

日本化粧品検定
1級対策テキスト(第1刷、第2刷)P36

日本化粧品検定
1級対策テキスト(第3刷以降)P36

ポリマー(高分子)

ポリマー(高分子)とは、それぞれを構成する小さな分子であるモノマー(構成単位)が鎖のようにたくさんつながってできるとも大きな分子です。古くから使用されている原料で、使用感や安定性を良くする目的で使用されてきました。最近では非常に多くの種類の高分子が開発され、今までよりもより良い使用感を作り出したり、機能性を高めたりするなど、多数にわたって化粧品に使用されるようになってきています。構成単位であるモノマーが1種類であるものをホモポリマー、2種類以上の物をコポリマー(共重合体)と呼びます。

〈ポリマーの分類〉

	起源	成分例
天然ポリマー	自然界(植物や微生物など)から作られる	セルロース、キサンタンガム、ヒアルロン酸 Na、コンドロイチン硫酸 Na、キトサンなど
合成ポリマー	化学合成により作られる	カルボマー、PVP、ポリアクリル酸 Na、ポリクオタニウム-10 など
半合成ポリマー	天然ポリマーを化学的に処理して作られる	ヒドロキシエチルセルロース、ポリアスバラキニン酸、ヒアルロン酸クロスポリマー-Na など

〈ポリマーの主な機能〉

	主目的	成分例	主用途
増粘・ゲル化	商品の粘度を調整し見た目や使用感・使いやすさを良くする	カルボマー、キサンタンガム、ヒドロキシエチルセルロースなど	乳液、美容液、ジェル、ボディソープなど
保湿	適度な水分を保持して皮膚に潤いを与える	ヒアルロン酸 Na、コラーゲンなど	スキンケア製品など
泡の増量・安定化	泡を豊やしたり、弾力性を与える きめを細かく、持続性を高める	ヒドロキシエチルセルロース、ポリアスバラキニン酸、ヒアルロン酸クロスポリマー-Na など	洗顔、シャンプーなど
感触向上	毛髪に付着して、洗髪中や乾いた毛髪の感触を調整する	ポリクオタニウム-7、ポリクオタニウム-47 など	シャンプー、ボディソープなど
被膜形成	乾くと膜を作り、パック性の付与、スタイリング力を調整、メイクアップの色落ち防止などの性能や機能を高める	PVA、(ビニルピロリドン/VA)コポリマーなど	パック剤、ヘアスタイリング剤、メイクアップなど
感触向上	水に溶けない細かい球形のパウダーが滑り性をよくする	ポリエチレン粉末、ナイロン粉末など	ファンデーションなど

ポリマーの分子ってどれくらいの大きさなの？

ポリマーは、小さい分子が鎖のようにつながって大きな分子を作っています。一般的には分子量が万単位、場合によっては百万単位のような大きな分子もあります。他の成分と比較するとその大きさがわかります。

例) 低分子 グリセリンの分子量= 92 スクワランの分子量=約 400
ポリマー ヒアルロン酸 Na=約 100万 コラーゲン=約 30万



高保湿を
目的とした成分

増粘剤

増粘剤は液体へのとろみづけ、使いやすさ(液垂れを防ぐ)や使用感の向上、乳化された水と油の分離を抑制する乳化学安定やゲル化、皮膚形成などさまざまな役割があり、ポリマー(高分子)が主に使用されます。ポリマーとは、小さい分子が鎖のようにつながって大きな分子を作っています。一般的には分子量が万単位、場合によっては百万単位のような大きな分子もあり、さまざまな種類や機能をもつものがあります。

	主目的	成分例	主用途
増粘・ゲル化	商品の粘度を調整し見た目や使用感・使いやすさを良くする	カルボマー、キサンタンガム、ヒドロキシエチルセルロースなど	乳液、美容液、ジェル、ボディソープなど
保湿	適度な水分を保持して皮膚に潤いを与える	ヒアルロン酸 Na、コラーゲンなど	スキンケア製品など
感触向上	洗髪中や乾いた毛髪の感触を調整 洗浄後の肌にしっとり感を与える	ポリクオタニウム-7、ポリクオタニウム-10 など	シャンプー、ボディソープなど
皮膚形成	乾くと膜を作り、パック性の付与、スタイリング力を調整、メイクアップの色落ち防止などの性能や機能を高める	ポリビニルアルコール(PVA)、(ビニルピロリドン/VA)コポリマーなど	パック剤、ヘアスタイリング剤、メイクアップ化粧品など
感触調整	水に溶けない細かい球形の粉末で滑り性をよくする	ポリエチレン粉末、ナイロン粉末など	ファンデーションなど

*日本化粧品成分表示名称辞典 第1版 参照 *マツモト交差HP 参照

pH調整剤

化粧品のpH(ペーハー)を調整する成分。pHとはある物質の酸性からアルカリ性までの酸度合いを示す数値のことで、0~14までの数値で表します。数値が7で中性となり、それより小さい数値になるほど、酸としての性質がより強くなり、大きくなるほどアルカリとしての性質がより強くなります。pH調整剤は皮膚への負担を減らすように化粧品を皮膚と同じ弱酸性にしたり、訴求成分を働きやすい状態にしたり、pHを適切な状態で保つために使用されています。酸性に傾ける成分として、クエン酸、リン酸、乳酸など、アルカリ性に傾ける成分として、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、アルギニンなどがあります。



キレート剤(金属封鎖剤)

金属イオンによる化粧品の劣化を防ぐ成分。化粧品中に微量の金属イオン、ミネラルが存在すると、酸化などにより品質が劣化したり、化粧品中の成分と結びついて機能を低下させることがあります。たとえば、温泉水で石けんの泡立ちが悪くなってしまうのは、温泉水中のカルシウムやマグネシウムなどの金属イオンが原因です。キレート剤は金属イオンと強く結合し、金属イオンの働きを封鎖するために使われています。主な成分にはEDTA(エデト酸)、クエン酸、エチドロン酸などがあります。